

## 公開シンポジウム

# 「世界遺産エジプト、メンフィス・ネクロポリスの未来」

—エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た遺跡整備計画の学際的研究—

## プログラム



2011年7月2日(土) 14:00～18:00

早稲田大学小野記念講堂

主催：早稲田大学エジプト学研究所・早稲田大学エジプト学会



# プログラム

- 13:30 開場
- 14:00～14:20 はじめにープロジェクトの趣旨と概要  
吉村作治（研究代表者・早稲田大学名誉教授）
- 14:20～14:40 エジプトにおける遺跡整備計画の現状と今後の展望  
近藤二郎（早稲田大学文学学術院教授）
- 14:40～15:00 メンフィス・ネクロポリスにおける保存整備例  
青木繁夫（サイバー大学世界遺産学部教授）
- 15:00～15:10 休憩
- 15:10～15:30 アブ・シール南丘陵遺跡および周辺の遺跡管理に向けた調査  
河合 望（早稲田大学理工学術院総合研究所客員准教授）
- 15:30～15:50 衛星データを用いたメンフィス・ネクロポリスの遺跡の分布・立地環境調査  
惠多谷雅弘（東海大学情報技術センター事務長）
- 15:50～16:10 アブ・シール南丘陵遺跡の三次元デジタルモデル化について  
阪野貴彦（東京大学生産技術研究所特任助教）
- 16:10～16:30 メンフィス・ネクロポリスの地理情報システム（GIS）による基盤構築の現状と課題  
津村宏臣（同志社大学文化情報学部准教授）
- 16:30～16:45 休憩
- 16:45～17:45 パネル・ディスカッション「世界遺産メンフィス・ネクロポリスの未来」  
コーディネーター 近藤二郎  
パネラー 吉村作治  
中川 武（早稲田大学理工学術院教授）  
青木繁夫  
惠多谷雅弘  
河合 望
- 17:45～18:00 研究代表者による総括  
吉村作治
- 18:00 閉会

司会 菊地敬夫（サイバー大学世界遺産学部准教授）



# 発表要旨

## プロジェクトの趣旨と概要

吉村作治（早稲田大学名誉教授）

エジプト・アラブ共和国、メンフィス・ネクロポリスはギザの大ピラミッドなど、世界でも最も重要な遺跡が集中する地区であり、1970年代に世界遺産に登録されている。しかし、近年この遺跡群でも人口増加による環境汚染、地下水の上昇、観光客の増加、開発による遺跡破壊など様々な遺跡劣化の問題が表面化しつつあるが、全体的な遺跡整備計画に関しては議論が遅れており、整備計画の必要性が高まっていた。

そこで、2007年度より科学研究費補助金基盤研究（S）「エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た遺跡整備計画の学際的研究」が採択され、様々な専門家によって調査が継続されている。本プロジェクトは、メンフィス・ネクロポリスの遺跡整備計画 (Site Management Plan) を提示することを研究の目的とした。特に考古学、保存科学、観光学、地質学など、様々な側面から学際的な研究を実施し、整備計画を策定することを目指している。

## エジプトにおける遺跡整備計画の現状と今後の展望

近藤二郎（早稲田大学文学学術院教授）

エジプトのナイル川流域に分布する多くの古代遺跡の整備計画の策定に関しては、現在のところ必ずしも十分であるとは言えない。幾つかの遺跡では、遺跡整備が観光と密接に結びついている場合が多い。北部のナイル・デルタ地域、首都のカイロ市近郊に位置するメンフィスおよびメンフィス・ネクロポリスとその周辺地域、南部のルクソール市とその対岸に位置するテーベおよびテーベ・ネクロポリスとその周辺地域、そして、中部エジプトやアスワン以南のいわゆるヌビア地域などエジプト各地の主要地域における遺跡の保存・修復を含む遺跡整備の現状や問題点、さらには、今後の展望に関してスライドを使用しながら説明を加えていきたい。

## メンフィス・ネクロポリスにおける保存整備例

青木繁夫（サイバー大学世界遺産学部教授）

「文化遺産保護」の望ましいあり方としては、「保存」を基本にしながら「活用」を考え、両者が持続性のある均衡のとれた状態を追求することである。この目的のために行われる作業は、遺産の構成要素を維持し、整えるための遺産の本質的な価値を明らかにする調査に始まって、「保存」に関する法律的、行政的、技術的分野にまで及んでいる。この中で技術的分野において行われる行為に「保存整備」の言葉を使用している。

メンフィス・ネクロポリス地区の遺跡の保存整備については、エジプト考古省と外国調査隊によって行われているが、エジプト自身が実施したところと外国隊が実施したところでは違いがあり、そこには一貫した基本的理念が認めにくいと云える。



## 発表要旨

### アブ・シール南丘陵遺跡および周辺の遺跡管理に向けた調査

河合 望（早稲田大学理工学術院総合研究所客員准教授）

科学研究費補助金基盤研究（S）「エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た遺跡整備計画の学際的研究」の一環としてアブ・シール南丘陵遺跡の調査が実施されてきた。考古学調査の役割が単に発掘調査と研究、報告書の出版という記録保存のみであった時代は既に終わり、保存整備・管理あるいは活用を視野に入れることが要請されている。本発表では、このような観点からアブ・シール南丘陵遺跡を例として「遺跡の重要性の理解」として位置づけられる発掘調査と保存科学・文化財情報科学などの関連諸科学による調査研究との連携・統合と将来の遺跡管理に向けた展望について報告する。

### 衛星データを用いたメンフィス・ネクロポリスの遺跡の分布・立地環境調査

恵多谷雅弘（東海大学情報技術センター事務長）

地球観測衛星に搭載されたセンサが高解像化し、赤外線やマイクロ波センサによって地表の状況がより鮮明に観測できるようになると、衛星リモートセンシングデータが様々な地域の考古学調査で活用されるようになってきた。その多くは遺跡の探査や構造理解を目的とするものであり、東海大学と早稲田大学の共同研究班もこうした流れの魁をなして、これまでのエジプト学史の中で見落とされてきた遺跡の存在を特定し、メンフィス地域の水辺環境と墓域構造に対する再考を1995年から継続実施してきた。本研究はそれらの研究蓄積をより高めて、遺跡の整備・保存への応用をめざすものである。

### アブ・シール南丘陵遺跡の三次元デジタルモデル化について

阪野貴彦（東京大学生産技術研究所特任助教）

歴史的建造物や遺跡などの3次元形状を計測し、デジタルデータとして処理・保存することで修復や展示などに利用される機会が、最近増えつつある。本発表では、アブ・シール南丘陵遺跡で行ったレーザレンジセンサによる3次元形状取得と遺跡のデジタルモデル化について述べる。また、これら遺跡のデジタルデータの今後の利用法について、我々がこれまでにやってきた国内外での大型有形文化財のデジタル保存プロジェクトから事例を交えて紹介する。さらに、取得した3次元形状データや画像の利活用や、MR(Mixed Reality：複合現実感)を用いた物語性のある歴史体験としての遺跡表示手法についても説明する。

### メンフィス・ネクロポリスの地理情報システム（GIS）による基盤構築の現状と課題

津村宏臣（同志社大学文化情報学部准教授）

本研究課題では、メンフィス・ネクロポリス地域の空間情報基盤を構築することを主目的とし、併せて、アブ・シール、ダハシュールの両調査対象域の詳細地形図作成とUTM座標系DGPS基準点の敷設、GISでの基盤情報化、地中レーダー探査データの統合などを実施した。また、現在の測量システム（電子平板：CAD）からGIS化を進めるための、メタ情報ならびハードウェア・ソフトウェアの整理・検討を実施した。結果として、対象域のランドサットTM・ETMデータ、SRTMデータ、住宅局作成地形図のデジタル化とGISデータ化、両調査対象域測量・探査データ、既知の遺跡データ、の空間情報基盤化（QGIS・IDRISI併用）が終了した。